

平成 27 年度第 3 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

1 会議名 平成 27 年度第 3 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議

2 開催日時 平成 27 年 10 月 8 日（木） 14:00～16:40

3 開催場所 八幡平市役所本庁舎 3 階大会議室

4 出席者

【委員】 15 名

工藤光栄委員、田村恵委員、野中邦仁委員、高橋麻里委員、松川章委員、伊藤忠雄委員、小野寺純治委員、金沢悠介委員、熊谷一樹委員、牛抱昭委員、大金恵美子委員、高橋麻美委員、森順彦委員、渡邊るみ委員、菊池光洋委員

【市側出席者】

田村市長、岡田副市長、遠藤教育長、香川企画総務部長、小林市民福祉部長、小山田産業建設部長、工藤教育次長、事務局（市長公室：佐々木孝弘、佐々木宣明、三浦拓）

5 議事

- (1) 第 2 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料について
- (2) 八幡平市人口ビジョン（素案）について
- (3) 八幡平市総合戦略（素案）について
- (4) 今後の策定スケジュールについて

6 意見交換の内容

事務局	(1) 第 2 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料についての資料説明
会長	<p>はい。ありがとうございます。みなさんから前回出していただいた主な意見を事務局からまとめていただいて、特に重要とありますが、少し検討しないといけないものについては、3 点をあげて、今こういうふうになっているということでもあります。</p> <p>それと追加の資料の方が一見すると高くなっているのが良さそうに見えるのですが、実は高い方が結婚をしていないということで、昔は結婚できない人という言葉がありましたけれども、今はそれがほとんど死語になりつつあるのかなというようなことが言えるのかなと思います。</p> <p>これは、もう一度やはり、できるだけ若いうちに、結婚するかどうかはご本人の自由では当然あるわけですけど、地域のために地域の宝としてのお子さんを生み、育てていくと、そういうことの取り組みが必要になってくるだろうということが言えるだろうと思います。</p> <p>なにか前回のご質問でこのとこ抜けている、それからあとはちょっと解釈が違って取り上げられているというようなご指摘であったり、ご意</p>

	見、ご質問はございますか。
委員	すみません、主な意見のところ、ホテルの書き方なのですが、どちらかといえば私が話したのは小規模施設のことで、民宿やペンションとかそういう意味合いの話をしたので、そこをちょっと変えてもらえればなと思います。
会長	宿泊施設全般という考えですか。
委員	宿泊施設全般ではあるのですが、主に、ホテルというのは営業がいるのですが、小規模な宿泊施設は自分で営業にいけないということがあるので、ただ待っているだけではなく、地域で何かしないといけないかなど。それを個々でみんなやるのではなく、まとまってとか、何かしら手を打たなければならないという、そういう話です。
会長	他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、次の検討でお気づきの点がありましたら、また戻っていただいてご意見をいただきたいと思 います。 それでは議事の「(2)、八幡平市人口ビジョン素案について」ということ で、事務局からお願いします。
事務局	議事 八幡平市人口ビジョン<素案>についての資料説明
会長	ありがとうございました。ちょっとおさらいをしますと、資料3の目次 のところを見ていただきたいのですが、めくっていただいて、はじめに の次の 2 ページの第一章が八幡平市の人口の減少ということで、これま で議論してきたことが入っているということですね。 第二章として将来人口の推計ということで、社人研の推計をベースにし ながら、これから議論を重ねていきたいと思います。それを受けて減っ た場合、人口減少に伴う主な課題ということで更に今日は 31 ページから 追加になっている人口の減少・変化が将来に与える影響というところを 税収を含め、かなり詳細に分析してきたというところでありませ う。 これを見ると非常に暗くなるわけですが、ですからこうならないよ うになんとかしたいと、みんなで考えるということになるんだろうと思 います。 特に地域での買い物の金額が減ってしまうと、これは盛岡に行って買っ ている分も含むと思いますが、全体で 134 億円も減ってしまうと。です から、これで商店はどうするかということがこの中に出てきています。 それから市の財政による影響もあります。その一方で、少し事務局は大 人しく話していましたが、高齢者の増額は 1.5 億円とわずかな高値安定に なっているわけです。結局、支える人口が減っていくわけで、結果的に 高齢者の利用地域だけが負担の割合が多くなっていくということになっ てくると。それを当然支えなければならないわけですから、どうしてい くかということで、日本版CCRCなども、市としては考えられている。

	<p>更にもう1つ、学校、保育園の維持困難化と書いていますが、人口、児童数が減っていくと、友達が出来にくくなるとありましたね。複式学級になって、さらに複式学級もなかなか維持できなくなるとすれば、また、再統合ということも視野に入ってくる。こういうことを地域の住民がよく理解して、「じゃあどうすればいいんだ」というようなことを一緒になって考えてくれることが望まれるんだろうというふうに思います。</p> <p>それを考えたときに、やはりちょっと厳しいかもしれないけども、38ページですね、日本の将来展望で社人研の資料は資料として、いや違うのだと、八幡平市としては、合計特殊出生率を2.07という将来目標を見据えて、現況値、38ページの箱の中にありますけども、2013年の出生率1.31というところをどうにか少しずつ努力をしてあげていくのだというようになるわけです。で、当然それに向けた施策は必要になってくるわけですね。子供を生む環境をつくり、子供を育てる環境、またはようするにお子さんを積極的に誘致するというような施策が必要になってくるというわけです。そういうことを踏まえたうえで、まず推計値としてあげていくと、39ページの上の段にあります社人研の16,465人に対して、2040年に18,800人という数字をなんとかキープしていけるのではないかと、かなり高い目標ではあるけれど、なんとかいけるのではないかとというような結果が事務局のほうで推計されてきているということで、40ページの下の方にきれいなグラフがありまして、今の2010年の人口構造が50歳代をピークにして、ある面では少し対象みたいな形になるけれども、社人研将来推計だと、0～4歳、5～9歳が非常に細く、小さくなっていると。それが、先ほどの出生率をなんとか達成すれば、もう少しバーが長くなって、子供たちが将来の八幡平を支えていくのだというようなことになるだろうということでもあります。</p> <p>あとは、人口移動の関係も43ページのところにありますけども、東京圏の転入・転出が出て行く人と来る人を差し引き0にすると、あとは盛岡・滝沢の方はできるだけ通勤は八幡平からというようなことを是非進めていきたいと思うような話でありました。</p> <p>皆さんからも積極的にご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。委員、これについて何かございますか。</p>
委員	<p>まず1点、事実の確認、正確には2点事実の確認をしたいことがありまして、まずは39ページの図36と37で、赤い線がありますけども、青い線が社人研の推計値で、赤い線が八幡平市のこれから目指す数値ということですけども、そこに出生率2.07というのは今の時点で出生率2.07にしたものを基に推計したのか、それとも42ページにあるように、どんどん前年より出生率が上がっていくような想定のもと、この数値を推計したのかをお伺いしたいというのが1点です。あと、合計特殊出生率という場合、基本的には出産可能な年齢の中で子供を生んだ人の数で計算する、生んだ子供の数で計算するのですが、その場合、結婚していない人も分類に入ってしまうわけですね。多分あともう1個考える上で</p>

	<p>重要なのが、完結出生数というものがあるのですが、子供を持っている女性が生涯何人産むのかで、大体、日本だと合計特殊出生率が下がっていても、完結出生数が2くらいで安定していたというのがあります。もしわかればいいのですが、八幡平市における完結出生数がどのくらいか大体わかれば、子供を持つ親御さんは大体平均して何人お子さんを生んでいるのか、ということをごすね。それが分かれば、八幡平市に住んでいる人はこれくらいお子さんを持ちますと。じゃあ新たに結婚した人が出来た場合に最低何人のお子さんをつくってもらえば、2.07 達成できるかの予測が立ちやすくなると思うのですね。なので、もう 1 点の確認としては、もし、わかればいいのですが、完結出生数みたいなものはどれくらいかというような感じでしょうか。</p>
事務局	<p>出生率のところでございますが、推計値は 42 ページの出生率の設定というところで段階的に引き上げということで、シュミレーションしたものでございます。それから、完結出生者数ですが、こちらのデータについては、数値を把握しておりません。市町村レベルのデータが存在するか確認のうえ、次回の会議においてご説明申し上げます。</p>
会長	<p>他はいかがでしょうか。</p> <p>女性の立場に対していろんな忠告の入るような推計値になっているということなので、それから先ほどのデータにありました報告であります。未婚率が高くなっていると。これからは必ずしも完結出生数、結婚しなければ子供を作ってはいけないということではなくて、いろんな形態があるだろうふうには思いますが、やはり、安心して子供を育てる可能性のひとつとしては、結婚して育てるというのも非常に大事なことなのだろうということで、先ほどの資料 2 を絡んで見ていただいて、特に女性が自立していたということが、言える結果なのかどうかはわかりませんが、八幡平市は 10 年前に比べて 3 倍近い未婚率になっているというように、これを見てわかるわけで、こういうところを次の戦略の中で、是非ご意見を頂戴できればいいなと思っております。</p> <p>とりあえず人口ビジョンについては、こういう数値だということ、後でまた少し議論をしていただいて、具体的な戦略を見ていただきながら、この数値でいいだろうかということにさせていただきたいと思えます。一旦ここで議論を終えたいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>それでは「(3) 八幡平市総合戦略素案について」というところについて事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>議事 八幡平市総合戦略<素案>について資料説明</p>
小野寺会長	<p>ありがとうございました。多岐にわたるものですから、少し分けて議論をしていきたいと思えます。もう一度、目次に戻っていただいて、大きく 4 つの施策があります。</p> <p>そのうちの雇用の場の確保ということで前回の表現を少し直して、生きがいを感じる働く場の創造というような表現になっています。この下</p>

	<p>に大きな2つの丸がある。赤い文字が前回提案したものに対して、加えたり、修正をしたということだということです。私もちょっと聞きたいのですが、大きな1の下に数値目標がありけれど、これもKPIと捉えていいのか、数値の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>国から示されておりますKPIというのは、施策にぶら下がるものです。基本目標におきましても、更に大きな数値目標として掲げるよう総合戦略の策定のあり方で示されています。なので、まずは、施策のKPIの目標の達成に取り組んで、その結果として大きな数値目標に到達できればというふうな考え方になっております。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございます。ということだそうですね。ですから、大きなくくりとして数値目標を大学の地元就職率とか製造に力を入れるとか、農産物の販売額というものを掲げ、具体的なKPIの数値は施策ごとに掲げていくということでもあります。1つ目が施策1の八幡平市の農と輝のブランド強化プロジェクトということで、このような項目があって、KPIもこうなっている。</p> <p>それから施策2が大学との連携による産業雇用人材強化プロジェクト。それで私どもで補足しなければならないことがありますけれども、施策2の大学と連携によるブランド育成・就職支援プラットフォームの、その下に赤で書いてあるふるさと岩手創造プロジェクト、地（知）の拠点大学の地方創生事業本部というのは、今、このまち・ひと・しごと創生本部の絡みで、文部科学省が、首都圏に行っている若者をどう地方に戻していくかというのが1つあります。</p> <p>もう1つは、地元の大学に入った子供たち、学生が地元就職できるように、どう地元の大学が頑張るかというところの大きなところが2つありまして、地元の大学が地域と連携して地元就職する就職率をあげると、具体的には、5年間で10%上げます。</p> <p>岩手の場合には、私ども岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学、一関高等専門学校ですね、そういうところが入っています。岩手医科大学さんは地元という考え方をもちにくいんですね。それが平均で45%が地元就職しています。</p> <p>それを5年後に55%に上げていこうということ。具体的に人数として155人、10%ですから155人増えていくと。たぶん八幡平市は155人増えるなかで、何人八幡平市が増やしていくのかというところが取り組みとなると。そのためには、単なる子供たちに就職しろと言ってもなかなか難しいので、地元志向の教育であったり、地元の企業さんに学生がお邪魔して経営者の方とよく意見交換したり、仕事を学んだり、インターンシップというけれど、そういうことをしたり、さらには大学も地元の経営者の方々とのつながりを太くして開発力を強めていこうとか、そういう取り組みをしていきたいと思いますというのが地（知）の拠点大学による地方創成事業というものであります。</p>

	<p>ちょっと長くなりましたが、そういう補足をさせていただきます。</p> <p>それから、あとは施策の3つ目が八幡平市の特徴であります、地熱エネルギーを活かした地域活性化プロジェクトということで、今盛んに総務省と一緒に検討をしている。総務省からの八幡平市の松川地熱発電所から出る熱水を温泉化して、地域の温泉施設に供給しているわけですけども、それだけではなくて、いろんな事業をそのなかで展開できないかと。温泉水、熱というものを活用した新たなビジネスをできないかということも今、市のほうで検討されているということです。</p> <p>最後に、農と輝の職場アピールプロジェクトということで、これは逆に言えば小中高そちらの方の取り組みが中心になってくるかなと思っております。いろいろ見ていただいて、視点で抜けているところ、特にKPIもそうですし、施策として抜けているようなところ、確認をしたいところがありましたら、是非ご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>今、会長さんから首都圏に行った大学生をこちらに戻すとか、あるいは地元の大学生を地元で就職させるという意見があったのですが、たとえば中学校から高校に進学する際に、大学を視野に入れるとなったとき、実際に平館高校でどのくらい大学の進学率があるかとなるとなるときに、やっぱり大学を目指すとなると難しいところがあります。そうすると、盛岡の方の学校を目指してとなると、その時点で地元からどうしても気持ちが離れてしまいますよね。なので、たとえば平館高校に独自のものがあっていいと思うのですが、進学コースのようなものがあつたりすると上を目指す子が更に県内の大学をねらったりとか、そういうルートもあるとすると、小中高のあたりは地元でということも出てくるのかなと思っております。</p>
会長	<p>ありがとうございます。非常に大切な意見だと思いますが、ある自治体でも同じような施策があり、やっぱり田舎の町なので、医師が不足している。そうすると医者を戻すために、高校のときからどうするかというような取り組みをするということもありますので、地元の平館高校をどういうふうに光り輝く学校にしていくかということがすごく大事だというふうに思います。ありがとうございます。</p>
市長	<p>いいですか、今の件について。今、県では、少子化に備えて高校再編を打ち出しているのですが、平館高校は、とりあえず対象校には当面は回避できるというような見込みになってはいますが、それを経て、校長先生からも相談を受けていますけれども、今のような話で、例えば、平館高校の地元就職率は、平館高校を卒業して八幡平市に就職している人は約90%、ほとんど地元に残っていただいています。そのほかに、進学を目指す子供たちも、約4~5名は県・国立大学に学力で入っていますし、スポーツ関係の推薦で入っている。そういうことも地域の皆さんにアピールしながら、校長先生の話では、普通科学級を、今3つあるのですが、</p>

	<p>家政科学科が1つと普通学級が2つあって、2クラスある普通学級を今おっしゃるように大学進学を目指す子供たちのクラス、そしてまた就職希望のクラス、今は家政科学科の名称で、これも直したいと言っていました。就職を目指してがんばっている子供たち、これをきちんと分けて、これから平館高校はやっていきたいのだということで、地元自治体としても、高校再編のお話もありますので、そのような際に今お話になったような方向で我々もがんばって、県に対して主張していこうかなと思っています。</p>
委員	<p>今のところなのですが、平館高校の入学者というのはほとんどの人が地元かもしれませんが、相撲とかスキーがすごく伸びているものに対して県外から来る人もいて、寮とかに入れて、スポーツを伸ばすような、子供を応援するような、そういうこともできていたりするのでしょうか。</p>
市長	<p>岩手県の県教委の対応というのは、よその県では自由によその県からも入れるようにしている県もあるのですが、岩手県の場合は、県外の子供がもし平館高校に入ってくる場合は、県内の中学校に1日でも在籍しなければ認めないよといっています。</p> <p>このような規制があるのですが、やはりこういう時代ですから、子供たちが自分の能力をどんどん生かしていくためには、県という境を越えて入学できるようなそういうシステムを作って、相撲にしてもスキーにしても優秀な人材を確保していくことが必要だと思っています。</p> <p>八幡平市以外の県内からは来ていただいています。県外からは大変で、相撲で2人だけ入学したことがあるのですけれども、これがまた大変で、西根一中に一旦中学校の籍を移して、それからでないとう入学してもらえない。たとえば、八幡平市の子で野球をやりたいからって、例えば高知の県立高校に行っている女の子もいるのですよね。自由に。そのところは、これからの課題でもあるのではないかと。</p>
委員	<p>私も平館高校なのですけども、最近、高校のあたりを通っても子供さんたちが集う場所といったらあれですが、子供たち同士が高め合う場所がない。マックスバリューの食べる場所のようなところに何人か集まっていたりとか、そういうことではなく、地域のなかで、子供たち、高校生なら高校生、中学生なら中学生も健全に集まれるような、そういう子供の環境を整えることもすごく必要な感じがしているのですけれど。すみません、以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。先ほど言ったCOC+のプロデュースでは大学生がキャラバンを作って、地域の高校や中学校をまわるといことも考えていますので、そういったなかで少し意識を高めるということもしていきたいと思っています。</p> <p>特に今の「学ぶ」というのが非常に大事なことだと思いますが、雇用というところがありますので、是非委員からご発言いただきたいと思います。大体このメニューで足りないところがないかどうか。いかがですか。</p>

	特に1番目のところですかね。あとは3番目とか。
委員	<p>ちょっと今、ただの思い付きなのですが、総務省からの業務委託事業で、分散型エネルギープロジェクトがあって、地熱・温泉を基盤とした観光振興と書かれてあるのですが、単純に発電所を作ってはダメなのかと。雇用も生まれ、電気も生まれるし、なんだかんだで、松川に大きな規制とかもあるでしょうけど。地熱の測量する話もあるけれど、多分いっぱい作ってしまうと自然になんらかの影響があると思うのです。地中エネルギーとかに。</p>
市長	<p>今、市では、地熱発電は平成31年の創業を目指して、井戸を掘る事業をやっています。あれが成功すると31年には地熱発電事業が可能になるかなと思います。</p> <p>そのほかにも別の事業者でもやっている。2事業所が安比高原の先のほうで、大型の何万kwレベルの地熱の事業化に向けて盛んにやっているところです。それとは別に、別の場所で取り組んでいる企業もあります。それが成功すれば、雇用というのは見込めないのですが、それによって税収もありますし、付加価値や、熱を使った産業とか何かが可能になってきて、そこで雇用が確保できるのではないかというふうに思っています。なんとしても地熱発電の事業が成功してもらえれるように、10年前から取り組んできていて、目前までできているところです。是非これは、成功させたいと思います。また、水力は、ダム方式の発電は不可能です。既に松川水力発電所がありますし、大型のダム式発電所は無理なのですけれども、国でも進めています農業用水を使ったような発電、モデル的に刈屋でモデルでやっていますけど、そうではなくもっと本格的に1つの水路に一箇所49kwくらい発電できるようなものを何箇所か作って、それを供給していこうということを、松川土地改良区で、今やるうとしています。</p> <p>いずれありとあらゆる、せつかくそういう資源がありますので、なんとかそれを有効に活用して地域活性化になればなど、産業の活性化になればなど思っております。</p>
委員	発電所を作ろうとしているのは県外の企業ですか。
市長	もちろん井戸1本で十数億投資しなければならないので、大企業です。大企業が何社か組んでやる、そういうふうな事業です。
事務局	<p>ちょっといいですか。八幡平で掘削していた井戸が、蒸気を吹き上げまして、11月から噴気試験を始める予定です。八幡平から晴れた日に見れば、蒸気が上がっているのが見られると思いますので、是非晴れた日は八幡平にいらしてみてください。</p>
会長	<p>地熱発電自体は蒸気が必要なので、やむを得ない。でもそこから出てくるエネルギーをどう活用してやっていくかが大事だと思うのですね。今の松川の地熱発電所も住民や地域還元でやっていただいて、そういうのを2つ3つやっていくことで、そこからビジネスをつくっていくことが</p>

	<p>大事だと思います。</p> <p>ありがとうございました。委員は、いかがですか。</p>
委員	<p>これを見て感じたことは、いろんなプロジェクトをこれからやっていくと思うのですが、ほんとにそれが市民にとって必要かっていうのは市民との会話を重ねていって、まちにとって生かせるようになっていただけるのが大事だと感じております。そのなかで私に出来ることというのは企業として地元の高校生ですとか、必ずしも地元の高校を経て、地元に戻ることもないと思うので、どこかの大学を出て、ここに戻ってきたときに、職があるように会社を維持して、そういう環境づくりをつくっていかねばならないと感じているのですけども、地熱の話もあったように、地熱の知識がまったく私や若者にはないので、小中高の中で、学習というのがもっと深くあってもいいでしょうし、地熱事業をどうしたらいいかというワークショップを経て、いろんな考えというのはみなさん持っていらっしゃると思うので、そういうことも活動の中に入れていただければなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。大事な意見ですね。市民が事業を起こすときに何かヒントを出してあげることかと思えます。</p> <p>次に委員、主要施策に世界的・広域的ブランドと書いてあるのですが、農業のことでいいのか見ていただきながら少しご意見いただけますか。</p>
委員	<p>リンドウと家畜がいいなと思うのですが、家畜を入れることで野菜と肉がいいなと思う。地熱なのですが、8年位前に市長に話したことがあるのですが、地熱の熱を使ってハウスを温めて、通年して野菜を作ろうとか。たとえば、ごみ処理場から出る熱を使ってとか、そういうことを話していたこともあるのですけども。そういうふうな取り組みがあってもいいのではないかと思います。</p> <p>ブランドの方はこれでいいと思います。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございました。</p> <p>若干6次産業化とか具体化のところは薄いかなと思ったもので、聞いてみました。ありがとうございます。</p> <p>今、施策1、それから先ほど施策2のところが出て、今施策3のところも出ましたが、全体を通じてなにかご発言したい方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
委員	<p>施策1を見ると起業支援が結構充実しているなという気がするのですが、やっぱりうちの大学生に聞いてみると、最初から自ら起業したいという、それほど気合を持っている人がなかなかいないということを考慮すると、最初は従業員としてというか、八幡平市に入ってくる人を吸収するのが重要かなという気がします。</p> <p>そう考えたときにやはり八幡平市のなかにどういう企業があるのかとか、そういうことを大学生等にアピールするというのもかなり重要というか、雇用支援になるのかなという気がするのですが、そういうリス</p>

	トとかの作成は考えていらっしゃるのでしょうか。
事務局	今、定住のホームページに作り込みはじめるということで、市内にある企業懇談会を構成されるすべての会社に「募集案内、求人情報を随時ください」という案内を出したところでございます。定住にかかるHPにそれを随時掲載することを始めておりました。ただ、おっしゃるとおり、まだホームページに載せているというレベルの段階でございますので、これをまとめて効果をどう高めていくかは今後進めながら次のステップを狙っていければということを考えているところでした。ありがとうございました。
会長	そこに求人広告をあげる企業さんの魅力をうまくアピールできるような施策も多分必要だと思います。あわせてご検討いただきたいと思います。他はいかがでしょうか。委員お願いします。
委員	目標というところで、施策1のところですね。起業件数とか、さっきの話でも起業する・しないとあったのですが、おそらく毎年評価をしていくと思うのですが、毎年起業件数が増えていくのができれば理想なのでしょうけれども、ちょっと厳しいと。起業件数もそうなのですが、たとえばですけど法人税の税収みたいなものを基準値にした方が評価もしやすいのかなと。
会長	なかなか最初は税収を得るまでいかないですね。結構時間が掛かるので。それから、地域資源を使ったビジネスという可能性が八幡平市にはあるかなと思っています。ただ、それが毎年増えていくのは大変なことで、意識をどうやって高めるか、それから若者がこの地域で起業するような魅力のある地域でなければならないというところ、ハードルをどうやって変えていくかということも含め大事だと思います。合わせて越えていかなければならないというふうに思います。 他はいかがでしょうか。はい、どうぞ。
委員	今の話に関連しているのですが、企業と市民推進力のプロジェクトと大学や高校もそうだと思うのですが、八幡平市の魅力を合わせて伝える。こういう企業があるだけではなくて、こういうふうな環境で、こういう自然があります、それからこういうふうに支援しますというところを最大限にPRできれば、それに関連して私達もじゃあ若いし地熱を利用して何か起業して見ようかなとか、そういうことを考えられるような環境というかPRがすごく大事なんじゃないかと思っています。 それは岩手にある大学だけでなく、中央の大学やそういうところにも積極的に八幡平市の資源はこういうところがあって、今こういうところに力を入れているということをPRすると、じゃあちょっと行ってみようかなと、みんなが、簡単にはいかないかもしれないだろうけど、八幡平市がどんなところだろうってちょっとでも思ってもらえるのがいいと思います。 それから、よくはわかりませんが、たとえば今、カミオカンデとか

	<p>岐阜県のほうに作っているんですね。だからそういうふうな、大学の先生の拠点とか研究のグループを八幡平市に誘致し、八幡平市に持ってきて、いろいろな研究が出来る部分を誘致するというか協力することも、もしかしたら将来八幡平市にここでこんなことができたというふうになるのかなというふうに勝手にそう思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。八幡平市、いろんな資源があつて特に地熱資源は大きくて、まだ研究要素もあると思うので、そのような新しい事業者が調査をしていると、そういうところでも可能性があると思います。</p> <p>先ほど言ったCOC+事業では多分自治体と大学、学生が連携して、地域の資源掘り起こしながら、なにかビジネスを検討するような機会をつくっていくことを想定していますので、大事なのは地域の経営者の意識も変わっていかなくてはならない。その両方をやらなければならないのだと思っています。</p> <p>ありがとうございました。他はいかがでしょう。</p> <p>それでは続いて2つ目のほうですね。「八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創る」というところに入りたいと思います。また1の方は振り返って、ご発言いただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>【施策2：八幡平市の豊かな自然や絆を活かし、新たな人が流入する流れを創る】：資料説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。5ページのところは観光交流人口、定住人口の増加というところであります。先ほどの人口ビジョンの37ページを開いていただきたい。37ページの参考の2というところにおきまして、交流人口の増加に伴う経済効果というものが試算されています。</p> <p>一人当たり1回あたり11,420円、岩手県では使われていますよと、1地点あたり4,340円支出されています。いろいろ書いてありますが、そういうものを先ほど見ていただいた134億円の人口減少に伴う地域の消費を補うとすれば、どれくらいあるか、必要なかと言う事で、計算されていると310万人の増となる。現状194万人、200万人ですから、倍以上必要だと、ただこれは同じ支出額の場合なんですよ。4,340円をもっとあげれば、8,000円に上げれば、この半分でいいわけですよ。</p> <p>そういう形で具体的な動きをしていくと、もっと少しでも多くの消費をこの八幡平市でやっていただく、滞在をしていただく、泊まっていただく、そういうことができると、今後個人消費の減少を補うことができるのではないかと。この辺を狙って、いろいろやっつけらっしゃるのだらうと思いますけれども、そういう取り組みが地域をあげて必要だろうというところも合わせて、お話申し上げておきたいと思います。</p> <p>ここの「2」のところの豊かな自然や絆を活かしたというところで、ご発言していただければお願いしたいのですけれども。どうですか。</p>
委員	<p>そうですね、先日、私の友人が東京からやってきていて、割と代表的な</p>

	<p>八幡平の観光施設を知人に案内してもらって回ったのですが、そのときに感じたのが、東京から来た友人がイラついているのですよ。何にイラついているのかというと、何か「遅い」とか、何かお店の対応に満足しないというか。東京のスピードに慣れているので、遅いというのがイラつく原因であったり、あとは、あまりにも重厚なサービスになれてしまっているの、そっけない対応に「あれ？」みたいな、期待はずれみたいな感じでイラつくみたいなのが。友達がイラついているのに、「ああ、私もかつてそうだったかもしれないな」みたいな、今は1年いるので慣れてしまったのですけれども、結構おもてなしという言葉だけが先行して、おもてなしをしているふうなのですが、私の目から見ても、岩手県の人たちってすごく1回顔見知りになったときにすごく素敵な個性というか人間性があって、私も住んでいてだんだん大好きになっているのですけれども、最初の取っ掛かりというか、お店に入ったときの第一印象とかが物足りない。やっぱり首都圏から観光客を入れるということは、首都圏のレベルに合わせていかないといけないなど。もしおもてなしを現状で満足しているのであれば、全然なので、まだまだレベルが追いついていないのかなと、自分が来たときに非常に感じて、やっぱり外の世界を知ることがすごく大事なかなと思います。</p> <p>度々私は関西に行くことがありますが、関西に行くと、関西の人たちのおもてなしぶりというのがすごいですよね。初めて行ってもまた行きたくなるような、おもてなしの方向性は、いろいろあると思いますけど、1つは、その人が望んでいることを先んじてやるとか、そういうことって初めてあったときに大事になってくる創造性や配慮とか、気づいていても岩手県の方たちって、されないことが多いなど。親しくなってしゃべっていると、そういう配慮ができないという人たちではないということが私はわかってきましたが、ただ、最初のところでそういうところがすごく少ないなど、すごくもったいないなというのを最近実感しました。ちょっと細かいところだったのですが、言葉が先行せずに、他と常に比較しながら自分の地域を眺めていくのがすごく大事なかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。なかなか県民性が出る場所でもありますよね。委員お願いします。何かありますか。</p>
委員	<p>観光協会にいたときにずっと思っていたことがありまして、数値目標で、観光客の入り込み数を挙げているのですけれども、宿泊者数とか割合もあるんですが、結局八幡平市、将来的にはお客さんが泊まる方向にしてもらいたいんですけど。すごい人が来るのです。アスピーラインも今紅葉できれいですし、温泉にも来るんですが、客が泊まらないのですね。お金を落とさずにそのまま行ってしまうというのがあるので、入り込み数の指標ではちょっと危ないなど。北海道とか結構進んでいるところは宿泊者数というか宿泊額を指標にしている、そこを入れていただき</p>

	<p>たいなど。さっき、教育のDMOの話でもあったのですが、メニューづくりとかもあるので指標をもうちょっと増やしたいなど。受け入れ者数というのは、おそらくインストラクターとか受け入れ側のほうの指標で、あとは学校数というのがあるのですけれども、そこがちょっと物足りないなど。メニューづくりをすとか、1回来てくれた学校がまた来てくれるような、リピートしてもらいたい、そういう仕掛けをちょっとやりたいなど思っています、今回1回来た学校の文化祭に行くことにしています。なんか、こう経済的な指標が物足りないなど思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。先ほどの金額等のところなのですが、なにか県庁としてそういう資料ありますか。</p> <p>私も数値は、人数だけじゃだめだと。やっぱり、お金をどれくらい落としてくれたかというのが大事なのですよね。人数は、極端な話、多くなくても、お金をしっかり落としてくれて、満足してまたリピーターになってくれると。そうすると次回は、もっとお金を落とそうという地域になることが望ましいわけですよね。どの県も人数しか出ていないというのが非常にはがゆいというのを感じています。</p>
委員	<p>正直なところ、捉えやすいというところ、過去の数値とが比較しやすいので、どうしても人数を数値目標として捉えています。県も同じようなことを言っております。会長さんがおっしゃるとおり、いかに色濃くそこに来ていただくかは確かにお金という部分があるかもしれませんが、なかなか金額というものは把握できるものなのかどうか。</p> <p>おっしゃる趣旨は分かります。</p>
会長	<p>そういう数値が、市町村にはないというものですから。国にレベルではいろいろ押さえている数値を、もしかしたらいろんなところで押さえているので、できるだけ明らかにしていただいて、それを県が重要な資料として出していただき、その後、地域に補完する形で出していただけることが非常に大事だなど思っています。是非私自身も個人的にもご提案したいと思います。他はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>やや具体的な話になるのかもしれないですけども、教育旅行等、ターゲットをどうするかって話で、案外1つの大きなターゲットになるのかなというのは、大学のゼミ合宿とかをターゲットにすることは1つのいい方法なのかという気がするのですね。</p> <p>特に都市圏の学校だとゼミ合宿でいろいろなところに行っているの、それをターゲットに定めて、であれば確実に宿泊しますし、少なくとも2～3日はいるはずですし、更にその学生たちが八幡平を対象に何らかの研究等をやれば、施策1にあった大学との連携による産業・雇用・人材強化プロジェクトにつながりやすくなるのかなあとということで、何箇所かターゲットを決めてやったらいい気もしますし、その中でも大学のゼミ合宿なんかはわりには有望なターゲットになり得るのかなと。個人的な妄想になりますけども、そんな感じがします。</p>

会長	<p>大学のゼミのほかに、学会がいいのだろうなど。岩手経済同友会会長が今年の夏に経済再生会議を日本版のダボス会議にしたいということを考えていて、私は盛岡開催でいいと思うのですよね。八幡平はもっとPRしてですね、そういうものを誘致できたらいいと思います。スイスのダボスなんてすごいへんぴなところですよ。電車で行くとえらい時間がかかって、みんなヘリコプター、飛行機で来るのですけれど。</p> <p>そういうもの考えたとき、八幡平は非常に風光もいいし、温泉施設もあって、いろんなものあって、これはもっと妄想ですけども私も感じております。ありがとうございました。</p>
委員	<p>今までそういうのに補助を出すような枠組みとか、ゼミ合宿でも多分学生はそんなお金がないから、ある程度補助が出たら来る可能性もありますし、でかい学会とかそのレベルの会議を開くだけでも運営するにはお金がかかるので補助が必要ですよね。</p>
会長	<p>盛岡市では、MICEという形で東北地域で誘致のための最大の支援制度を作ってますけど、そこをうまく使いながらというのもあると思いますし、いろんな方法があるのではないかと。八幡平市だけではなかなか大変だと思うのですが、やはり、盛岡を含めて全体で考えていく。絶えず学会とかそういうものを盛岡だけではなくて、近隣地域をうまく使いながら、結果的に盛岡広域にお金は落ちていくでしょうから。</p> <p>ありがとうございました。他はいかがでしょう。</p>
委員	<p>施策1の健康リゾート強化プロジェクトと日本版CCRC構想なのですが、たぶん関係しているのかと思っていて、CCRC構想というのは、多分、介護になる状態の前の健康寿命を長くするということから発想しているのかなと思っていて、その取り組みを健康リゾート強化プロジェクトと結びつけるということになるのかなと私は勝手に思っていたのです。それで、そう考えたときに施策は全部そうかもしれないのですが、八幡平市は広いので、この地域は、健康リゾートとCCRCとか、それから、スポーツイベントとか合宿はこの地域というようにやられて考えていくこともいいのかなと思っています。</p> <p>健康リゾートは、今ある施設とか、ホテルでも体育施設をお持ちのホテルもありますから、そういうところを活用して、外からそういう方々を呼ぶとかプログラムを作って、そういうふうにして健康を提供ということかなと、うまく話がまとめられませんが、すごく同じような感じで進めていくことがいいのかなと思っています。</p>
会長	<p>わかりました。重要な視点だと思います。地域の特色を生かしてうまくアピールできるようにしていくと。ただ全部1つの色で塗ってしまうのじゃなくて、多様性を見せていくことがすごく大事だと思います。ありがとうございました。</p> <p>他はいかがでしょう。それでは時間もだいぶきていますので、3番の「八幡平の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔をはぐくむ」というとこ</p>

	ろに入ります。
事務局	【施策3：八幡平の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育む】：資料説明
会長	ありがとうございます。「八幡平の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育む」という議題でしたが、いかがでしょうか。
委員	水を差すようなことを言うかもしれませんが、2と3のところに電子ツールを使った取組みというのはいいと思いますが、市がやらなくても一般のアプリだったり、メールマガジンがたくさんあるので、たとえばここに力を入れるよりは、ほかのものをやった方がいいのかなという感じはします。アイデアとしてはいいと思います。
会長	ありがとうございました。委員どうですか。たとえば今、PTA等で既存の公園が少ないというお話が市であったということですが。
委員	考えていたことと全然違ったので、今はちょっと。あとでいいですか。
委員	それではちょっとすみません。全般にわたって、特に若者等の定住促進プロジェクトというのがあって、市外からの転入者数など色々数値が設定されると思うのですが、先日私は徳島県の上勝町という葉っぱビジネスで有名なところにちょっと視察に行って来たのですが、そのときにそのとおりだなと思ったのが、移住のステップアップという表があって、ピラミット形式になっているのですね。そのピラミットの底辺のところメディアがあって、一番上のところがIターン、ようは定住なんですね。その間のステップとしては、下からメディア、上が1日～数日の短期滞在、その上が1週間～1ヶ月のインターンシップ、その上が長期滞在、たとえば地域おこし協力隊みたいな年単位での長期滞在、その上にIターン・定住というのがあるのですね。なので、一足飛びに定住を目指して、直接定住に働きかける施策をやっても、これはとてもハードルが高いことなのだとこのことを改めて認識した上で、そういうステップがあった方が最終的に目標の数に到達しやすいのではないかと思います。実際に上勝町の定住人口なのですけども、実際に今まで548人のインターンシップなど受け入れをしてきて、34名の方が定住しているという、ものすごい数を実現している。町は1,700人ぐらいしか人口がないところですよ。これだけの人数の定住を成し遂げたということは奇跡だなと思ったのです。やっぱりそのブレイクダウンしたステップをきちんと歩んでやってきた結果なのかなと思いました。おそらく、実際の施策の部分では、きちんとステップアップをされるご予定ではあると思うのですが、ここだけをいきなり設定するのではなくて、インターンシップを充実させ、学校も充実させ、それが最終的に形になっていくという考え方をみなさん共有されたほうが、もしかしたらいいのかなというように思いました。
会長	ありがとうございました。重要な視点だと思います。すぐ、ぽっと来て定住というわけにはいかないですから、いろんなところから観光客で来

	<p>て、いいねと思えるように体を慣らしていくとか、一元さんはつきにくいねということとか。徳島の場合、神山町というようなところもありますし、それから後は島根には海士町という高校がなくなりそうところをがんばって、半数以上の高校生が島の外から来ているなんてところもありますので、そういうところをうまく参考にしながら組み込んでいくことがすごく大事だと思います。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>1つ質問があるのですが、8ページの下にコアのファンとありますが、コアなファンとはどういったファンなのか。縁を結んで笑顔を育むっていうところにつながるのかよくわかりませんでした。</p> <p>それから、若者定住促進プロジェクトで菜園付帯型住宅の整備というのは、どうなのかなと思います。CCRCでは高付加価値があって必要なものだと思います。</p> <p>若者にとって、定住は、ここでウィンタースポーツや自然を気に入って移ってくれる方がすごく多くて、その方々に安い家賃で住める場所を確保して、自然に住めるおしゃれな場所を確保していったほうが、定住しやすい環境ではないかと思いました。</p> <p>私も子育てアプリや出会いのスマートフォンのアプリというのは、特に必要ないのじゃないかと。というより、八幡平市というのはすごく若者にとって行って楽しい場所ですとか、観光としての面をもっと充実させたアプリを開発する、どこかに委託するなどして、SNSを使うことによって、出会いですとか、子育てにも楽しい場所なのだよという話になるのではないかと思いました。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。確かに、若者は菜園付き住宅というものよりはね、これは中年夫婦以上の方が馴染むのだろうなというふうに思います。いろんなご指摘ありがとうございました。コアなファンっていうのはどうでしょう。</p>
<u>事務局</u>	<p>表現の仕方でのご指摘かと思いますが、八幡平市を愛していただけのファンという意味合いでしたが、ここの表現のところはもう少し考えさせていたいただきたいと思います。ご指摘ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。たぶんコアなファンをつくるためにはSNSなどをうまく充実させながら、来た方が安心して、またそこで情報が出ていって、そういうことをうまく増殖させるような取り組みが必要なのだろうなと思います。先ほどおっしゃった段階的な部分の最初のところだと思います。もう少し整理したほうがいいと思います。いきなり定住ではなく、こういうところからという流れも大事かと思いました。</p> <p>ありがとうございました。他はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>たぶん定住を促進する場合、いくつかターゲットをわけたほうがいいのかと思うんですよね。ただ、Iターンの人であれば、いろいろステップを踏んで詰めていくやり方だと思います。一方、Uターンとかだと八幡平に</p>

	<p>縁があるので、かなり I ターンの人よりは短いステップでストンといけるような気がします。ほかにも滝沢に住んでいる人とか盛岡に住んでいる人を住宅地として八幡平市に住ませるとするのはそこまで難しいステップは必要ないような気がするのです。</p> <p>ただ、そういった人たちを諸々呼び寄せるためにも、八幡平が暮らしやすいんだというところを見せたほうが良いということで、そう考えていくと諸々生活に必要というか、便利で面白い施設が盛岡にあるのですが、その盛岡にあるものの小さいものみたいなのが八幡平でつくれば、たしかに企業の戦略とかに関わるので、来いといって来るとは限らないのですが、たとえばツタヤみたいなやつとかそういう小規模な娯楽施設があるだけでも過ごしやすさは変わるのかなというように感じています。あと、I ターンの人たちに対してアピールするのは仕事があるとかどうかではなく、ある種ライフスタイルっていう、たぶん八幡平で生きるとどういふ人生が送れるのか、人生のプランみたいなものを前面に押し出すアピールとして、特にコアなファンをつくるためには必要なのかなというように感じます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。すごく重要な視点だったと思います。ほかはいかがでしょうか。他にいかがですか。</p>
委員	<p>それでは、ちょっといろいろ考えていたことがあるので、今まで長期ビジョン云々で、35 年後の人口統計を出していますけれども、さっき T P P が締結しそうだという話になると、地域の人の動きもあるし、実際問題、八幡平市にもたくさんの農業の研修員とか外国の方がいっぱいいるのですが、今、難民問題云々ということを考えて、国の政策としてそういう人たちを受け入れるよとなったときに、ぱっと手を挙げてうまくやっていく方法を前もって準備していたところっていうのは、おそらく人口を多く抱えられるだろうし、そういう人たちは子供たちをつくらせていくという意味での人口増にはなるのかなというようにことをつらつら考えていて、ほかの事はあれだったので、もしかしたら、そうやって、国がまだ動き出す前のこともちらっと頭に入れて、施策を考えていると 35 年後に、コロっと政策が変わったときに「もううちらが準備しているよ」と動けるのであれば、すごくアドバンテージが持てるのかなということを考えていました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。金融機関の方では、この定住対策になにか銀行の中で議論はないのですか。たとえば空き家対策など、一緒に地域とやっていくなど、それだけではなくても結構ですがなにかありますか。</p>
委員	<p>具体的に空き家対策云々が銀行であるかどうかはわからないのですが。私は、盛岡から今年の 4 月に転勤してきましたけれども、空き家が多いなというのが 1 つの印象と一方でアパートが多いなという印象があって、その辺がどうなのでしょう。外に住んでいて、まだ理解していないのと、空き家の活用をどうしていくのかあまり見えないというのがあります。</p>

	ども、空き家の対策というか、空き家をうまく活用して外の人を呼び込むということは必要なのではないかと思います。
会長	ありがとうございました。ほかにはどうですか。コメントはございますか。
委員	特にそういうのは支店で話はないのですが、うちとしては、子育ての支援や、先ほどもありましたいろんな住居に対するローンの金利を下げたりといった商品は出しているのですが、私も実際4月から来ているので、空き家の数など、そういうものまだが全然把握できていないのです。確かにそういう形の活動を考えていくことによって人口の増加に繋がると思います。
会長	<p>ありがとうございました。予定が4時までということでしたが、すごく大事なことだと思いますので、若干時間を延ばして進めたいと思います。</p> <p>私の個人的なイメージなのですが、うちを所有するというのと利用するというのは違ってくるのだらうと思うわけですが、一定の地域で若いときからずっと年を取るまでいるわけではなくて、その場所、場所で、子供が小さいときは自然環境のいいところで育てたいとか、変わっていくのだらうと思うのです。変わっていくことに対するローンであったり、何かを考えなければならない時代になってくる。そうしないと一方では新築が出来て、一方では空き家があって、更にアパートがまた出来てくると。非常に日本の住宅施策ではやはり、どっちつかずの状況になってきていると思いますので、是非金融機関もその中で大きな役割を果たされているので、ご検討していただきたいなと思います</p> <p>おそらく、滝沢とか盛岡に自宅持っている方が、じゃあ若いうちは、子供が小さいうちは自然の豊かな八幡平で住んでみたいね。大きくなったら、盛岡に行こうかなというのはあるかもしれないけれど、そういうことを少し考えになってみるといいなと思います。これは私からのお願いになります。</p> <p>それでは、ここの3段目のところはとりあえずこれで一旦終えたいと思います。続いて4の「各地域の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める」ということで、よろしくお願ひします。</p>
事務局	【施策4：各地の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める】：資料説明
会長	ありがとうございました。4番目の各地域の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高めるということで、施策が5つあって、最後は盛岡広域圏、まさに増田さんが言っている人口のダム機能ですね。先ほどありましたが、やりたい仕事と求人のミスマッチがあって、八幡平市に就職ができない。でも東京に行ったら八幡平に住めないから、盛岡に留まってもらって、盛岡がそういう形で充実してもらえれば、八幡平市にとってもいいのです。逆に言えば、八幡平市で観光とか交通がしっかりすれば、盛岡の消費も活発になるみたいな、そういう役割を都市

	<p>圏ビジョンでやっていこうというように理解しております。何か皆さんのほうからご意見はありますか。</p>
委員	<p>今、会長さんがおっしゃった広域の取り組みについてはまさにそういった取り組みです。是非八幡平市の計画の中にも取り組んでいただければなというように思っております。</p> <p>それから、まちづくりについては、担当者からも先ほどの人口ビジョンについて、ある程度減っていくなかで、いかに持続できるまちづくりをしていくかということだと思いますので、その中でも地域の強み、たとえば再生可能エネルギー、それから地域のつながりということで、コミュニティづくりになるのですけれども、地域に生かしていくことがしっかりしているといいというように思っております。</p> <p>そういうことで、どれがいいとか全般でそういった視点で捉えられたらいいなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他にもご意見でも何でも結構です。1つ2つ付け加えることはありますか。</p>
委員	<p>再生可能エネルギーというのが出てきたのですけれど、この広域で市長さん、町長さんで集まったりするのですけれども、非常に熱心な首長さんが多いと感じておりまして、その結び付きで経済の循環、地域で循環させるという取り組みになれば、本当に暮らしやすいまちになるのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他にはなにか、今までの意見も含めてありますか。</p>
委員	<p>関係あるとかないとか、いろいろあると思うのですが、2～3点ちょっと恐縮です。時間が押していますが。</p> <p>3ページのリンドウやハウレンソウとあるのですが、これはあれですか、作れば作った分だけ売れるのですか。それから、あとは年収で考えた場合、大体どのくらいかなというのが1つ。</p> <p>なぜこんなことを聞いているのかというと、東北・北海道ブロックで会議があったのですが、山形で、震災前のいわゆるリーマンショックのあたり、バブルも含めてなのですが、岩手県が今求人倍率 1.27 ということで、全国で 15 番なのですが、その当時は 0.3 倍台。最悪なのです。その中でも山形は 0.6 を切らなかった。そうすると、紐解いてよくよく聞いてみると、村山地方、あるいは尾花沢地方をよく聞くのですが、農業の収入が高いために求職者が他の地域と比べて少ないのだと伺ったことがあります。ですので、3ページのブランド化については、是非とも力を入れてやっていただきたいということが1つございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。さきほどのリンドウとハウレンソウが作った分だけ売れるかどうかは委員のほうからお答えいただけるのではないかと。どうでしょうかね。</p>
委員	<p>そうですね。作っただけ売れますね。</p>

委員	大体あれですか。言葉が変なのですが、岩手県のサラリーマンの方と同じぐらいの年収になりそうですか。どうですか。
委員	大体間引いてやっているのです、3間ハウスで1ハウス 60~100万でやっている人が多いです。だから、それ掛けるハウスの数で大体出ると思います。ハウスをやっていたらやっているほど出るので。
市長	面積で言えば、お米と比較すると、お米と同じ面積の約9倍超くらい。お盆だとか彼岸だとかで、市場が要望する、市場がほしい量の3割くらいしか提供できない。だから新規の若い人も是非こっちに来てもっとやってほしい。
委員	簡単にはいかないでしょうけど、たとえば企業規模で考えましょうなんて方も中にはいらっしゃるのですかね。
委員	法人の人も何人かいるので、そのグループに入れるか入れないかでまた変わってくると思うのですけれども。
市長	一番懸念しているのは、せっかく産地として確立して市場の売れ行きもよくて、外国にも輸出増やしていこうとしていても、家族経営が多いので、そうすると家族の中で奥さんが、旦那さんが病気で亡くなった場合、一人でやる必要がある。それをなんとか防ぐためにも、分業化とか共同作業でもいいし、それをやらないと大変だろうと。
委員	東大更地区には、リンドウの営農組合を24世帯でやられて、各家庭から女の方は日中は花の選別に、朝晩は高齢のおじいさん達が農薬をかけて、今すごくがんばっている地域があります。地域の元気は、コミュニティセンターも活かす場だとは思いますが、それは主にサークル活動であったり、スポーツであったりということで、週1回くらいずつに活動を楽しみにやると思うのですけれども、労働力にもなって、市民としてもお金を得ているということをやうまくやっている事例も地域のほうでも見ているので、やはり全部が元気、お金もないのにサークルだけ行っても元気ではなく、やはりサークルに入れられないお仕事している人というのはコミュニティセンターにいても入れないという声をよく聞くのですけれど、どちらもうまくいくような形で本当に高齢者が元気になる場、高齢になる私たちも、そういう場があるとすごく賑っていくようなイメージができていくのですけれども、だから誰も若い人だけではなく、いろんな、リンドウのことを知らない方でも知識を経て、私たちでも参加できるような職場があれば、きっといっぱい働きたい人がいて、お金を得たい人もいて、という元気にもつながっていくのではないかと思います。
会長	家族経営から法人化になっていくと、8時間働くところが3時間とか4時間になるんですね。ようするに一人ひとりの働く時間を提供していくことができれば、ハッピーになれるのではないかと思いますね。
委員	地域のお年寄りや近所のお年寄りをお願いしているのですけれども、すご

	<p>い早く起きるのですよ。夏だと朝4時から働いてもらって、1時間くらいでお金を払っているの、ものすごく早くに来て働いてもらうみたいなことでやっています。うちはできるのですが、他はできるかはわからないので。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他はいかがでしょうか。今まで特に力を入れていましたが、お時間になりますけれども、ご発言したい方がいたら。</p>
委員	<p>2番目の2つ目、平館高校の就職率のほぼ90%が地元に残ってもらっているという話が出ました。では、平館高校に入らないで、違う高校とか、大学にも入りましたという人でも、ここに戻ってきて、ここに生活したいという人が多くなれば、八幡平市に生まれて、八幡平市に生活する人が増えると思うのです。どうすればいいかとずっと考えていました。</p> <p>9ページの若者定住促進プロジェクトというところに空き家の対策や居住地域の改善というのがあるのですけれども、これと同じくらい小学校、中学校、高校で、地域って大事なものだよ、すばらしいものだよ、住んでいる自分たちも地域の一員だよという教育を今でもやっているのでしょうか、もう少し強く教育して、自分たちの住んでいる地域に誇りとか充実感を持てるような教育を、教育なので、強制的にはできないのですよ、市としても。でも、そういう目標みたいなものを掲げてもいいのではないかと。私は、この辺で生まれて育ったのですけれども、私の小学校や中学校のときは、もうちょっと地域のつながりがあるような教育があったような気がするし、PTA会長からもそういう話をいっぱい聞いたような気がしますし、今そういうことを考えて会議に出ていました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。これは、盛岡広域圏のビジョン懇談会でも随分そういうのが出ておまして、やっぱり小中学校のときから地元のいろんなことを知って、地元を誇りに思うという。ただ、一方的に妄信的に誇りに思っている、他を知らずに誇りを持っていても、ずれてしまっているのは、まずいのですけれども。でも、そういうことは是非必要で、鮭が本能で地元に戻ってくるように、いずれ帰りたいと思う子供たちをつくるのが大事だと議論が出ています。ありがとうございます。</p> <p>それから後は、盛岡に行ったり、東京に出て行ったり、そういう子供たちが戻ってくる、先ほど今度やるCOC+の中でやれるかどうかわかりませんが、東京の大学と連携しながらインターンシップをやりたい場合に地元の大学もインターンシップの中に学生も入ってもらおうというふうに考えていました。それがどのくらいの数になるかわからないけど、そうすることによって、東京での勉学をやって、学生のうちこちらに来てインターンシップを経験して、場合によってはこちらに入るかもしれないし、そういうつながりができることが大事ですし、たとえば平館高校さんが自分たちの子供たちだけじゃなくて、もうちょっと盛岡市内の高校生の面倒もみられるといいのかなと思いました。そこはなか</p>

	<p>なか学校の規制もあるので、難しいだろうと思いますけど。</p> <p>委員、そこら辺のインターンシップの話で何かありますか。あまりそちらのほうは気になりませんか。</p>
委員	<p>我々も率先して、たとえば先生、会長さんとのところから、毎年計画的にインターンシップについてやりとりをしていますけども、後は企業ニーズを踏まえて対応していくような感じだと思います。</p>
会長	<p>子供たちが就職したいと思っている就職先は、きれいで、あまり力仕事がないところというのが多い。ところが地元にある就職口は結構現場に出てってやらなければならない。その mismatch が大きくて、必ずしも就職先がないわけではない。今 1.27 といったように、 mismatch ゆえに、どうしても就職につながらない。たとえばブルーカラーという言い方はあれですが、そういうことに慣れてやってくる子供たちが出てくれば、就職口はあるのですよね。そういう教育になっていないというのも 1 つは言えるのだろうというように思います。</p> <p>私の個人的な見解のものでありますから、正しいかどうかわかりませんが、他はいかがでしょうか。よろしいですか。では今日はこういった感じに議論を進めて参りましたが、また例におきまして、是非これを見ていただいて、数値、他の自治体等で作っているのも出始めておりますし、それらを見ていただきながら、気がついたことがありましたら、事務局のほうに言っていただければ良いかと思えます。</p> <p>今は「(3)」まで終わったところでございます。それでは「(4)」の今後の策定スケジュールについてお願いします。</p>
事務局	<p>～今後の策定スケジュール～資料の説明</p>
会長	<p>ありがとうございました。みなさん何かご質問はございますか、よろしいでしょうか。それでは、「6」のその他というところで、委員の皆さんなにかございますか。</p>
事務局	<p>それでは本日は参考資料ということで、A3 カラーの用紙をつくって参りましたが、本日説明したものをまとめたものでございます。</p>
会長	<p>それでは議事はひととおりで終了しましたのでお返しします。</p>
事務局	<p>長時間にわたる熱心な意見をありがとうございます。以上を持ちまして第3回八幡平市まち・ひと・しごと創生有職者会議を閉じたいと思えます。ありがとうございました。</p>